

京都教区時報

小教区の頁一津聖心教会
特集一コミュニケーション年にあたって

第87号

発行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入

京都カトリック教理センター

広報室 (Tel 761-9095)

編集責任者 村上透磨

編集部 教理センター

田中司教認可

(伊勢教会 堤 好造)

私はこのテーマを「社会と共に歩む信徒」と考えました。そうすれば私は「何をなす可きか」と云う事が自ら判然としてくると思います。社会は悪の塊りでも罪の巢でもなく「キリストの贖い」によって得られた」と云う信仰の許に私は聖旨に適合する社会を築く責任があると思っています。それ故各自の社会環境に応じてなす可き事が沢山ある筈です。

処で少し角度を変えて考えてみたい問題があります。それは「家族計画」であります。更にもう一言、八月号「いのちの電話」のレポート英断を称えます。反対の意見もありましようが。

(石原祐子)

自分たちが人を大切にしているかどうか、いつも考えなければならぬと思う。教会の中で、学校で、会社で、あるいは地域社会で。ほんとうに、お互い大切にしているか。偏見や差別の心で人をふみにじっていることはないだろうか。

スロープのない不便さに気づかない心が、教会の門をどぎしてしまっている。「あそこの人たちは……」というひとことが多くの人生をおしつぶしている。仲間はずれにされた子は学校へ行けずに泣いている。だれもが大切にされる教会に、社会になる

扉を開き主と共に社会へ



ように、毎日、祈りながら、自分を変えてゆきたい。

(宇治教会 藤田恭子)

まじめで熱心な祈りと共に教会の有り方を正しく認識する事、又社会が必要とするものが何であるかを探り、扉を開くだけでなく、主と共に社会に出て行く事によって、外からも入って来る事が出来る教会。それによって個人及び教会の中にある問題を克服出来る事を体験し、信じる事が出来る教会。これが社会と共に歩む教会の理想だと思っています。祈りと共に行動し、行動の中に神を見出したいものです。神の聖旨は祈りと他者への働きかけの中に見出せると信じています。

(M・S)

京都教区のビジョンがきちんとした文章になってみると、立派になり過ぎて近づき難く思えてくる。また「社会とともに歩む教会」というタイトルがシラシラしくも思えてくる。

しかし実際に話し合いに参加してみても、自由な心で私たちの生き方を考えて行けばよいのだなあと考えた。教会でのミサ、行事があまりピンと来ない自分は、生活しているさまざまな場所を考えて行けばよいと思う。もし自分の中に信仰心というものがあるのなら、教会の建物の外でキリストに出会えるのではないかと考えている今日この頃である。

教区短信



9月23日(土) 特別聖体奉仕者研修

会(洛星)

9月25日(日) 久居聖信ミサ。在日韓国

人間題学習会(三条)

9月26日 司祭評定例会

10月3日 (阪)被差別部落問題と取り

組むキリスト者連絡会

10月5日(土) 11月5日 第二回東西霊性

交流(合同拱心・本山訪

問・分散僧堂生活・名刺

寺院・陶芸茶道武道見学・

シンポジウム) 京都、奈

良、岡山、鎌倉、東京

10月8日(土) 9日 カト全国聴覚障害者

の集い(西院・三条)

10月10日(土) 14日 教区付邦司祭懇話会

10月16日(日) 山科30周年聖信ミサ

10月23日(日) 北白川聖信ミサ

“こんなに元気です”



「古屋司教さんとしてはりますか？」
というご質問、お電話を皆さんからよく
いただいておりますので、司教様の近況
をこの号を通してお知らせしましょう。
富田病院を退院なさってから一年半余
の静養に努められ、写真でごらんの方
にお元気になりました。
高野教会で火木土曜日の朝六時半、主
日七時のミサの司式をなさる程の回復ぶ
りを皆さんといっしょに喜ぶたいと思っ
ます。
―教区民の皆さんにお伝えになりたいこ
とは？

「もう神様から引導を渡されたのに、皆
さんのお祈りでここまで来ることができ
ました。こうしていられるのは、当り前
ではなくて、ほんとうに神様と皆さんの
お祈りのおかげです。これからの命を皆
さんのために使うことができるよう、続
けてお祈り下さい」
何時に変わぬ司教スマイルが、ミサ後
に向っていただいたカメラに爽やかでし
た。
(Y)

司教の足どり

7月～9月



七月

16日 第二回東西霊性交渉準備会(花
園大禅文研・V・プラフト師と
面談)

面談

17日(日)きおん祭(自稱「正統カトリ
ク聖母の御国特別宣教師」が京
都南部一円の小教区・修道院等
に終日出没)

小山教会ミサ。L・Mにあいさ
つ。平和旬間準備委

18日 教区付邦人司祭月例会

19日 20日中央機構検討反省会(湯河原)

21日 神の園(特老)堅信ミサ

22日 WCRP(諸宗教)と面談

八月

31日(日)OFMグループ来訪

30日 ヌベール会管区長来談。大本代
表来訪(比訪問)

29日 宣教師教委初会合(東京)

28日 学教区理事會

27日 小神生・養成担当司祭と昼食

23日 国際宗教同志会(於一燈園)

2日 Y神学生来訪。カト学連代表

2日 第三回司祭・修士研修準備会

3日 三重中学生キャンブ慰問(唐崎)

4日 M師来訪。教会学校教師会代表
来訪

5日 広島巡礼。カミンズ氏(アリゾ
ナ平和公園館長)と面談。原爆

6日 慰霊・平和ミサ(司教座聖堂)

原爆慰霊平和祈禱式(神仏基・
供養塔前)CBS第一回京都支
部合同キャンホリー・ミサ(滋
賀マキノ)

30日 31日聖ライムンド。来客多数。絶
えざる御扶けの聖母修女会総長
(韓国)来訪(第八回日本宗教
青年高尾山会議)

16日 朴司教(全州)と海外司牧につ
いて面談。五山送り火観賞

20日 同和問題全国研修会(洛星)

21日(日)彦根ミサ

23日 26日第三回司祭・修士研修会(岡
山厚生年金センター)

27日 カト聴覚障害者団体代表来訪

28日(日)母を見舞う(聖マルチン病院)

30日 31日聖ライムンド。来客多数。絶
えざる御扶けの聖母修女会総長
(韓国)来訪(第八回日本宗教
青年高尾山会議)

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄

(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
電話 (075) 312-7829
(075) 771-7577

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

お知らせ

マリア森波訖子さん帰天

9月19日 享年63才

河原町教会を訪れた人は、何等かの形で御世話になった 森波訖子さんは、9月19日未明帰天された。河原町教会で40年近く、特に聖堂と事務の仕事をもくもくと果たされ、教会にとってなくてはならない存在、裏方の役を忠実に果たされた。

葬儀は20日午後12時半より、教会葬として行われ、田中・古屋両司教と共に他七名の共同司式ミサが多数の信徒の参列のもと盛大に行われた。森波さんの生前の陰の働きを感謝すると共に、御冥福を心から祈りたい。

◎南信協婦人部合同バザー

とき 十一月二十七日(日) 十一時半
ところ 河原町教会

目的 いこいの家の基金
ベトナム難民定住の援助

主の平安 昨年につづきまして、前述の要領でバザーを開催することになりました。今年は緊急に資金を必要とされているところに、純益の50%をご利用いただくことになりました。誠心誠意頑張りますので、どうぞ皆様のあたたかいご支援をお願いいたします。

バザーを通して、小教区間の親交と親睦がますます深まることを祈っております。その節はご不用品、手芸品、委託品、模擬店関係やお手伝い等のご協力をお願いいたします。

◎希望の家バザー

今年も希望の家のバザーを11月13日(日)(AM9時～PM3時)に行います。古くなった設備の改修資金を作らねばなりませんし、地域のお祭りとして、いろんな人たちの出会いの場としても、又、多くの方々の協力の輪を確かめることによって何にもかえがたい激励、勇気が与えられるという意味で大切な行事です。お部屋の片隅にねもつっている品物、日用雑貨、文房具、食料品等、ご寄贈いただければ、嬉しく思います。尚、抽選券一枚百円とチケット10枚綴り二千円があります。御協力下さいます様よろしくお願い致します。

アジアの兄弟のため〈韓国ラザロ村〉 今年も歩こうウォーカソン 11月3日



お問い合わせ 教理センターアネックスまで



みことばを書こう

聖書週間プログラム

●主催 京都教区・京都カトリック教理センター

◎書道作品募集

- 1 趣旨 聖書を生活の中に入れてゆく
- 2 出品資格 児童の部・幼児・中学生 成人の部・高校生以上
- 3 出品要領 出品点数 1人2点まで 書体・大きさ 自由(横書き)
内容 聖書のみ言葉から 出品料 1作品に付二百円
昭和58年10月31日限
- 4 出品〆切 京都カトリック教理センター
- 5 送り先 京都カトリック教理センター
606 京都市左京区仁王門通新高倉東
入ル ☎ 075-762-2627 (075) 762-2628
- 6 展示会場 京都カトリック会館6階
- 7 展示会期 11月23日(水)～27日(日)

◎聖書朗読コンテスト

- 1 趣旨 聖書に親しむ。典礼の中で聖書を正しく読む。
- 2 応募資格 中学生以下 15名
高校生以上一般 15名
- 3 朗読箇所 参加者が随意に選ぶ(2分以内)
- 4 申込〆切 10月31日 教理センター宛
- 5 日時 11月23日(日) AM10時～12時
- 6 場所 京都カトリック会館6階ホール

エリザベト音楽大学 特別演奏会 大阪公園

1983年11月15日(火) PM7:00

ザ・シンフォニーホール

指揮/ホセ・テホン 井上一清

演奏/エリザベト音楽大学合唱団

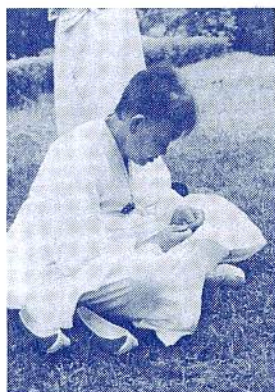
エリザベト音楽大学管弦楽団

演奏曲目 交響曲第3番・モーツァルト作品78(ク・サン・サーンツ)

レクイエム作品9・M・チャリャブル

入場料 1,500円

お問い合わせ 07442(3)0330仲川まで



聖母行列と野外ミサ 報恩寺教会



報恩寺教会では、創立35年目を迎えて、聖母被外天の前夕8月14日午後6時から第1回聖母行列を実施した。近藤師(西舞鶴)、ヒルム・ブ師(綾部)もかけつけられ、福知山、綾部教会の信徒の参加もあって、総勢150余名の行列を行った。幸い数日前から気をもませた台風5号の襲来もなく、風も穏やかで1キロ余り地区内を廻った後、小さき花幼稚園園庭で、野外キヤンドルミサが捧げられて幕を閉じた。

尚、9月11日(日)AM6時35~45分)読売テレビ宗教の時間に聖母行列の模様を含めて報恩寺教会が紹介された。

第一回カトリック聴覚障害者大会

京都で

第一回カトリック聴覚障害者大会が京都で行われる事になった。

主催は、カトリック聴覚障害者大会実行委員会(代表 山本泰三)

後援は、カトリック 障害者連絡協議会となっている。

プログラムは次の通り。

10月8日 12時受付開始

於 京都カトリック会館六階会議室

后1時30分 大会第一部

后6時より 懇談会 後分宿

10月9日 10時30分 於西院教会でミサ

と昼食会 後 河原町へ移動

后2時より 大会第二部

后6時 交流会

今回の大会の目的は、

聴覚障害者の組織作りへの第一歩とする、聴覚障害者がかかえている教会内外の問題を話し合い、理解し合う事、障連協への役員を派遣する事、等のようである。

大会から組織が生まれると言う事が果たして可能かと思われる方もありだろうし、こつこつとした地味な集まりから盛り上って来る事が望ましいとは思われるが、その誠意をくんで、この大会が成功する様、できるだけ協力をお願いしたい。

言葉が通じないことが、どれだけ生きる世界を暗く困難なものにしやういかを健常者は十分理解すべきであろう。

子羊会 聖年巡礼

8月27日~28日 子羊会員の人が、友の会、ボランティアの人の助けに支えられて、無事、聖年巡礼を終えた。

27日朝、明星観光のバス一台を借り切り河原町を出発、青谷でミサ、奈良で聖体降福式を終え、一路関ロジに向う。

行く教会毎に、歓迎を受け、

会員一同、大きな喜びを味わった。津につくまではバスの方は、

大型車侵入禁止にさえぎられる等、行路は御難続き。乗っている者には心持よく、運転する方はいらいら続きであった様で申し訳けなく思われた。津に予定時間に遅れる事、30~40分、忍耐強く待つ信徒達に暖かく迎えられ、ボラス・村上両師の共同司式ミサになる。

ミサ後、あたたかい歓迎と、手作りの昼食をいただき喜びも一しおの感。体の不自由をおしての巡礼だけに、それだけ



桃山教会巡礼

の価値があろう。それにつけても、この巡礼には、友の会の人々の助けなくして成り立たず、にこにこ喜びをもって奉仕する姿に感謝の祈りを捧げる。

巡礼するもの、助けるもの、迎えるもの、すべての人々に神の恵み豊かならん事を。

桃山教会は9月15日、伏見・宇治・高野・山科等からも参加。バス2台をかり切り、山国・亀岡巡礼を果たした。山国教会の人々にとって120名にも及ぶミサにどの様な感銘があったろうか。又司祭のいない事を体験した事のない信徒の人々ほどの様な思いを持った事であろう。

特に山国教会の狭い聖堂には入り切れず、隣りの広場に作られた祭壇の周りに集まり共にミサを捧げ、親睦をも深めることができた。神に感謝。

滋賀地区(連合)

第8回青少年夏期練成会

8月12日~14日

カトリック滋賀県連合会主催による夏期練成会を、8月12日から3日間、大津市メリノールハウスで青少年53名参加して開催した。

同練成会は、滋賀県各教会学校教師会が協力し合ってカリキュラムを作り、日ごろの体験や教師会研修会での研究成果を活用する場でもある。

開催に当っては、県下の神父様初め召命委員会の協力をえ、大塚神学生・シスター3名の指導、助言をいただいた。また、田中司教様・ラッキー元管区長の激励訪問をうけ一同感激した。

テーマは「神様によばれている私たち」で、生活指導と学習を主眼に過去の実績を生かしてカリキュラムを工夫した。参加者は県下の各教会の小学5年から高校3年、男女あわせて53名を各学年、混合グループに分け、学習、ゲーム、話し合い、食事、一定のルールによって礼儀正しく行なわれた。

カリキュラム概要
第一日目 ミサ・仲間になろう。
(ゲーム、スポーツ、キャン

第2日目

ドルサービス
「神様によばれている私達」の学習と神学生及びシスターの話し・スライド

第3日目

告解・ミサ・友情サイン集め
食事メニューは限られた枠内で婦人会の自慢の腕をこの日のために特別に發揮、野外でのびわ湖を背景にした食卓で、子供たちは美味によった。



また、この練成会は大人にとっても有意義な参画であり、学習指導教師会・運営準備壮年・食事準備婦人など40名が各々分担し、活動を通じて各小教区のメンバーとの交流が深められた。この姿こそ信仰共同体一致の教区ビジョンにそくした分かち合いでありこの練成会の評価を高めている要因だと思ふ。

文責

滋賀県カトリック連合会
会長 鈴木康男(大津教会)

参加しないと絶対にソンですよ!

京都南部高校生会ワークキャンプ

8月16日~20日

今年もまた、京都南部カトリック高校生会では、岡山の長島愛生園にてワークキャンプを行いました。当初の予定では8月16日から20日まで、ということでしたが、台風接近のため、一日延期して出発することとなるなど、出発前から一波乱ありで、どうなることかと大変心配でありました。しかし、あちらの島には、台風の影響はこれっぽっちも無かったそうで、キャンプ中も連日快晴、みんな無事に帰って来ることができました。

今年は家庭訪問、夏まつり、交流会など、島のみなさんとの交流の場が、去年と比べてたくさんありました。そのせいでしょいか、学んだことや充実感も、だいぶ増したように思います。

家庭訪問は、希望者が2・3人ひと組となつて、ハンセン氏病が完治して自活しているおじいさん、おばあさんのお宅にうかがって楽しく過ごす、というものです。訪問の前に、事務所の係の方からお聞きした話では「学校もろくに行けなかった方々だし、あまりむずかしい話はないではない」との事で「何について話そうか、やっぱり高校野球しかないかな」など各自、思い悩んでおりました。が、実際に訪問してみても驚きま

した。私の訪問したのは、おじいさんのお宅でしたが、本棚にはズラッと哲学、医学、歴史の大全集がならび、お話の内容ももうなすくのがやつとというような高度さで、はては勉強の仕方まで教えて頂き「誰だっむすかしい話をするな、なんつったのは!?」という感じでした。その中でも一番感動したのは、やはりハンセン氏病での御苦労のお話です。地図を見ていて私が「あつこが私の家ですつ、絶対遊びに来て下さい」と言った時おじいさんが「いやいや、こんな汚いのは行ったりしないから安心してよ。」と言われしました。その時は差別の御苦労がどんなに大きいものであるかをしっかりと知りました。このように、おじいさんの一言一言に学ぶことがぎゅっしりつまっていて考えさせられると共に楽しい時間でした。ごちそうして下さる冷えたジュースやお菓子も、このところありつけなかった私達にとっては天の恵みでした。

夏まつりも思い出深いものの一つです。「まつりを盛り上げるのは君達しかない」とか言われて、はりきって踊りました。訪問したおじいさんにお会いすると色々買って下さるし、他の方々も気軽に声をかけて下さるし、ますます友達輪が広がりました。

交流会も歌をうたったりお話ししたりとても有意義でした。作業もつらかったけど楽しかったし何もかもが良い思い出です。今年参加できなかった人は来年参加しないと絶対にソンですよ!

(桃山教会 高2 土持直子)

8月23日～26日、岡山県総社市、厚生年金センターにおいて、教区内に働く30名の司祭が集まり、第三回夏期研修会を行った。その中で信徒使徒職と適性配置についての問題が話し合われた。

信徒使徒職についての最も重要な点は次の通りである。尚根本的な精神についてはまとめを参照されたい。

一、信徒養成について、信徒は自分達が生きた養成を受ける側にのみ留まるべきではない。各自自らが自分達自身を養成する任務をもつ。

二、信徒職には境内地内と境内地外における事が出来る。境内地内と言うのは従来の教会内部における信徒の役割である。特に教会の経済的配慮、典礼への積極的参加、各種信心会、各会活動、要理や青少年育成への参予、病人家庭訪問等がある。境内地外は、小教区を超えた種々の活動、協力。更に対社会的な社会の福音化と社会問題への参予(難民、同和問題、いのちの電話等)があげられよう。

三、どの様に養成又は実践していくかについては、グッドニュースレター106、108号の信徒の奉仕職について13程あげられているが、本研修会においても14ほどにまとめる事が出来る様である。

適性配置について一言のべておきたい。これは小教区教会の位置とそこに派遣されるリーダー(司祭・信徒を含め)の派遣の問題がある。従来の小教区制度、又その位置が機能し難くしている面がある。白紙に戻し、考え直せないものか。又、基礎共同体的なものを模索してみよう。

研修会のまとめ

信仰の恵みを広げよう

キリストの共同体において生かされ、キリストの共同体から派遣される信徒

信徒使徒職を考える時、信徒は洗礼によって共通な、しかも固有な使徒職を持つてゐるものであると考えます。

司祭研修会

8月23日～26日

於 岡山県総社市

それは何か、司祭や聖職者を補助する様な役割を果たすと言う事ではなく、信徒である事それ自体によって、自分に与えられた福音とその喜びを、自分に固有な生活の場で体験するだけでなく、それを証し、伝えるものであると考えます。したがって、それは聖職者達から委任されたことよりむしろ、信徒として召されたその事によって直接、神から与えられるものであると考えます。勿論、司祭はその叙階によって、この共通の使徒職に加えるに更に特有な使徒職が与えられる事

を認めねばなりません。

私たちは信徒に与えられた使徒職に特に目を向けねばなりません。それは「社会に、日常生活に遣わされている」と言う事です。公会議はこれを、「世界の光の教会」と言い、聖書では「世の光」「地の塩」と言った言葉で表わされ、私達の教区ビジョンでは「社会と共に歩む教会」と言う精神の中に表わしました。

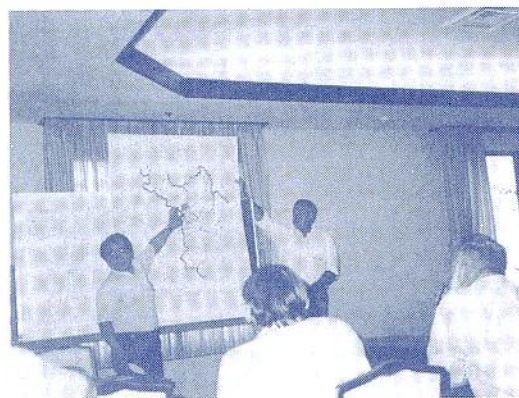
信徒の固有な使徒職は、まさに「この自分の生きる世界へ」と言う事に特徴づけられています。勿論これは、常にイエズス・キリストへの信仰によって生かされている共同体で育成され、そこから派遣されていると言う事は言うまでもありません。

司牧とは何か、について、現在日本司教団の共通見解は「宣教する信徒を育成する事」としています。

信徒はみな、指導を受け、恵みを受けとり、教えられると言った受身の立場にあるのではなく、信徒である事によって、他人に教え、恵みを伝え、他の人々を導く役割を持っています。ところで司祭の役割ですが、その様な信徒に自らなろうとする信徒一人一人を養成すると言う事です。

更に重要な事を忘れてはなりません。

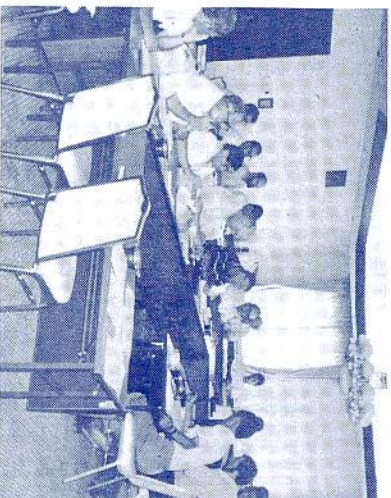
こういった恵みを受け、それを開花させる事。教えを受けとりそれを伝える事。自分に委ねられた人の救いへ導く事は、常にキリストによって集められた共同体を通じて果たされるという事です。したがって信徒各自は、自らを、キリ



ストの共同生活において成長させる様努めると共に、司祭の務めは、その様な共同体作りに必要なあらゆる努力を払う事です。高この共同体は、かならずしも現在ある小教区をさすのではなく、最近言われる基礎共同体的なものをさしています。神の民はこういった共同体を基礎に建てられ、又神の国は、この様な共同体の開花とも考えます。

さて信徒の共通な役割と固有な役割を明確にする様に努力している信徒の使徒職について、次の様なものを上げてみる事にします。

- 1 あらゆる分野において、福音の精神に従って働く人を、司祭達の助けを借りながら、自らの手で育成していく事。
- 2 真の共同体作りを目指して努力する事。
- 3 教会(信徒の集いとしての教会)内



機、人間愛、家庭、幼児教育、青少年教
な世界を含んでいます。さらに、平和、人
ら、国際問題にいたる広範にして、複雑
社会、経済、文化、芸術、広報の分野か
に移すことです。信徒の宣教活動は、政治
教へのさまざまな可能性を見出し、行動
駆りたて、まだ、かくされている福音宣
「信徒の任務は、キリスト者を宣教へと

えます。
なかった事も含めて書かれている様に思
の研修会で話し合った事。少し言い足り
な言葉があります。これらは私達が、こ
フロ六世の「福音宣教」の中に、次の様
柄に対して責任を取る事が大切ですが、
む教会として、私達が出会うすべての事
4 信徒は、社会の中に、社会と共に歩
任をもっている事。

の救いの体験的交流(エコンミア)と外
に對する派遣(ミッシオ)を共に何う責

育、職業、労働、苦悩の分野に及びます。
5 信徒もまた、すべての人間の救いへ
の配應に参身しなければなりません。が、
それは、その第一の責任を負っている司
祭達と心を合わせ、協力していく事によ
つて果たされようと考えます。
以上の様な事を念頭に置きながら、現
在私達が信徒と共にしている種々の教会
活動を直視し、その中で、司祭しか出来
ない活動、信徒がした方がよい活動、又
やるべき事などを探求する時、そこにお
のすと、信徒としての役割も明らかにな
つてくるでしょう。
最後に信徒の使徒職は、派遣であると
共に、召し出してもあります。召し出し
は神から与えられる呼びかけであり、患
みであります。そしてこの召し出しは、
キリスト者として、神から共に与えら
れているものであります。信徒は各自、
その生活の場において、その召し出しを
実行する事によつて、そのミッシオ(派
遣)を実現するものであります。
福音をのべよ。
尚公会議文書中、特に信徒使徒職教令
教会憲章、現代世界憲章、更にバコロ六
世の福音宣教を再びよく読み直したいも
のであります。

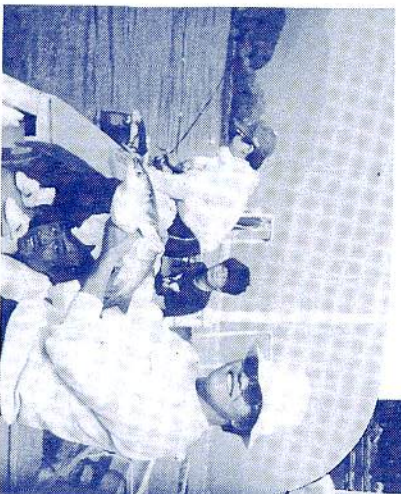


子ども魚はあるか

教区の南端、巡礼指定協会、尾鷲教会
は、京都・四国画教区、柳学生、及び候
補者六名、担当司祭三名、更に一日目は
田中司教の参加で、がせんのにぎわいを
呈した感があつた。

六日、朝四
時全員起床。
川口氏が、舟
を一隻チャイ

らでも人々は救いを得られる様に思つて
いたが、失敗の方が多かった。キリ
ストさんあなたの方を人々の漁師とすると
よう云わはつた、あれは、成功するより、
失敗する事の方が多いかも知れないが、
がんばりなさいって言う事だったのかな。
実はその夜、食べ切れない程の魚が取れ、
残りをお土産に持って帰ったのでした。



京都・四国教区 柳学生含宿

於 尾鷲 9月5日～7日

ターして下さる、沖にこぎ出して釣
糸を重れる。第一番目はM師の糸にかか
り、やや御満悦のてい。T師は適当に釣
り終えると、舟の真ん中でお昼寝、誰も
主よ起きて下さいと言うものなし。B師
と言えは、終始、穩かに釣糸をたれ続け
られる。
M師一つの発見をしました。魚釣りは
どんなにベテランでも、釣れない事の方
が多い事。私達はキリストに召された漁
師として、言葉の糸をたれば、いく

夏期司祭修道士研修会まよめの概略



信徒の使徒職の根本概念については、本研修会の「まよめ」であらまし述べられているので、ここでは、その具体的な事のみを述べる事にしよう。

Ⅰ、境内地内と外の信徒職

Ⅰ、境内地内（小教区内）例えば典礼への積極的参加、教会運営（特に経済的問題）、教理教育、各種信心会、カトリックアクション、青少年育成（幼児教育も含む）、病者、老人への思いやり、家庭訪問、家庭の福音化（祈る家庭、みことばが分かち合われる家庭、みことばに生きる家庭）等。

Ⅱ、超小教区（小教区を超えて共に集まる、行動する、協力する）例えば、教会一致運動、バザー、運動会、講演会等への参加協力、信徒協、ビジョン推進のための集い、中高生会等。

Ⅲ、諸活動を通じて、例えばレジオ、ピセンシオ、CLC、正平協、学連、子羊会（友の会）JOC、ACEO、其他職業別の種々の会。

Ⅳ、対社会に対し（境内地外）例えば、難民問題（ベトナム・カンボジア難民問題等）、アジア・アフリカの貧しい人々への援助（例えば里親制、飢饉援助マザー・テレサ友の会等々）、おもちゃライブラリー、各種活動のための教会開放、各種養護施設の経営、援助、各種教育施設、病院、授産所、老人対策。

いのちの電話、同和問題等人権問題への取り組み。大阪ふるさとの家様の働き。希望の家の様な、地域社会のための働き等。

其他社会問題に関わるすべての事。

Ⅱ、「次にどの様にするか」と言う観点からみれば次の様なものがあげられる。

Ⅰ、信徒使徒職養成。

養成コース。養成コース以外にも簡単な養成法を通して。

Ⅱ、特別聖体奉仕者の育成、助祭職の制定と育成。カテキスタ育成等。

Ⅲ、各種講座、例えば、心理的なものを取り入れたグリフィン神父の神学講座、各種講演会、勉強会、各種の方法による聖書研究会。

Ⅳ、要理教育。例えば、教会学校、求道者要理研究会（信徒も共にあずかる）、成人教育（生涯教育、教会学校教師会、大人に教える事の出来る要理教育）。

Ⅴ、種々の新しい動き。例えば、ネオ・カテクメナーレ、マリッジエンカウンター。青少年エンカウンター、カリスティック運動、フョコラーレ運動、CLC等。

Ⅵ、諸活動、カトリックアクション。

Ⅶ、各分野の専門家養成。又各分野における専門職を生かしての貢献。

Ⅷ、各種リーダーの養成。例えば祈りや聖書の分かち合いのリーダー、家庭訪問のリーダー、教会役員。

Ⅸ、各種相談室。日常生活の諸問題について、各方面の専門家の協力を得て。カウンセラー。いのちの電話、等々。

Ⅹ、家庭。よき家庭作りは第一の使徒職。信仰教育（家庭ぐるみの祈りの体験、より理想的な家庭作りの努力、家庭問題についての話し合い、助言、指導、円満な人格形成の温床、道場。近所づき合い、社会との関わり等。

Ⅺ、障害者に対して。

参照、障害者問題についての「訴え」と「指針」（ビジョン推進連絡事務局）

Ⅻ、弱い立場に置かれている人々への取り組み。例えば同和問題、難民問題。在日韓国人、朝鮮人問題。働く青少年、低賃金労働者、職や家のない人（注マタイ25・31）

Ⅼ、教育活動。例えば保育園、幼稚園、小中高、大学教育を通して、各種専門教育を通して。

Ⅽ、教師、生徒、父兄の相互信頼、援助、自己養成、等。

Ⅾ、福祉活動。奉仕活動。

Ⅿ、施設を通し、運動を通し、活動を通じ、秘跡的生活への招き。

ⅰ、洗礼への招き。福音化への準備、福音化、要理研究、受洗後の配慮。代父の協力等。

ⅱ、堅信への招き。大人の信仰への自己養成。他者との協力関係の育成。信徒使徒職。リーダー養成等。

ⅲ、聖体への招き。ミサへの積極的参加。みことばの分かち合い。ミサの準備。実生活への力。兄弟的交わりの原動力。

共同体としての体験等。

(4) 結婚への招き。結婚講座。結婚互助会。キリスト教的家庭を作り上げる努力。

子女のキリスト教的育成の方法、探求、指導、結婚後の相談、指導、未婚者、離婚経験者、未亡人等への思いやり等。

(5) 召命への招き。召命促進委員会。練成会、黙想会。青少年育成。信仰・祈りの体験（特に家庭において）。他人に奉仕する事の喜びの体験。聖職者との人格的触れ合い等。

(6) 和解への招き。ゆるしの秘跡に近づく。兄弟的一般への努力。和解。法に触れた者への思いやり（ぶつかり合ってもけんかでなく）等。

(7) よりよき余生への招き。病人看護。病人への配慮。老人に生きがいを与える工夫。老人看護。死者を大切にする、墓地を大切に等。

現代世界憲章で「真に人間的な事からでキリストの弟子たちの心の中に反省を呼び起こさない様なものは何もない」と言っている様に、信徒は以上述べた事以上、もっと広い関わりをもつて社会の中に福音の精神に照らして生きているわけであらう。

信徒の使徒職はそれ程重要で、又深みと広がりを持ったものである。

最後に、この使徒職は、キリストの共同体を通して、又その共同体の一致において果たされていくものであることを、心に留める事にしよう。

(B)適性配置について (基礎共同体の模索)



これは全く宣教司牧の観点から考察しなければならぬ。この場合「効果的な」と言う考えが許されるならば、現代社会において、より効果的に、信徒の霊的かつ全人格的養成と、福音宣教の実が結ばれるためには、現状の教会の組織、制度、教会の配置、そこに派遣される使徒の(司祭も、信徒も含めて)配置等が、この宣教、司牧によりふさわしいかどうかを考える事にある。

ほとんど誰もが、現状の制度に対して何か不都合さや不便さを感じているし、何か改善の方法はないものか、と考えている。

そこで、今ある組織・制度・配置を処分してしまうつもりは全くないし、又それとも不可能だろうが、(不可能なら考えるなど言うことなく)教会本来の目的をよりよく果たせる様に、今迄の組織、制度の配置等を洗い流して、ゼロから考え直してみることが出来ないものだろうか。いやそれをしてしなければ、より効果的な神の国の福音の実現は出来ないだろうと言うのが我々の考え方である。

この試みがよりたやすく発展するため

には、従来の小教区制が何に基いていたかと考えておく必要がある。

それを一言でいえば、分割統治するローマ国家統治制が、教会の組織にも取り入れられた事と、地域社会と大家族制に密着した農村共同体を理想とする制度が取り入れられた事である。ところが、都市化現象の著しい現代にこれが、多くの矛盾を生じている事は事実の様である。

適性配置について、解決よりも今問いかける事によって、今後の話し合いの糸口になる事を期待しよう。

そこで次の様に問いかけてみよう。

- 教会を場所を中心にして考えるか、人を中心にして考えるか。
- 行政的な区画に従うか、それとも例えば、交通機関等によって所属教会を考えるか。

- 組織や制度を中心にして考えるか、それとも活動や福音を中心を考えるか。
- 境内地内(小教区内)の司牧中心に考えるか、境内地外(社会)の福音化を中心を考えるか。

私達は決して従来の教会組織、制度、小教区制等が、全く間違っていると言うつもりは全くない。そこに多くのすばらしい面がある事を認める。しかし又逆にそれが絶対的なものとして、しがみついてもいいものないし、又しがみつくべきでもないであろう。とにかく現代にあつて、よりよく司牧宣教が可能になるためにはどうすればよいのかを考えたい。

これらの問題は、ただ聖職者だけが考えるべきではなく、信徒も、司祭達も、

修道会も共に考え、話し合っていくべきであることは言うまでもない。

さて今研修会に集まった多くの司祭の意見に、基礎共同体的なものを模索してはどうかと言う意見が強かった。

基礎共同体とはどういうものなのか、又それと小教区との関わりはどうなのかについて、詳しい説明がなされねばならない。しかし少くとも次の様な理解をもっておればよいのではないか。

まず信徒達が、唯一の信仰、唯一のキリスト、唯一の洗礼(注エフエゾ4・4)を基礎として集まる時、そこに最も小さな信仰共同体が生まれる。そこで共通するものは、この信仰・洗礼・キリスト・神等、キリスト者として基本的な事柄である。この基礎的な共同体において交わりの中心としてのミサが行われ、兄弟的交わりが生まれる。その中には自づと中心となる信徒のリーダーも生まれそのリーダーを中心として、社会との交わりを密にしなが、互いの信仰生活を深めていく。司祭は、小教区教会(基地)を中心に、それらの小さな共同体(基礎共同体)に出かけて行き、ミサを司式し、リーダーに指示を与え(養成し)信徒に直接に出会いながら教へ導く。

この考え方によると、建物より先に、人々の信仰における一致の集いが重視される。土地を購入し、建物を作り、教会堂を作るのは、この人々が必要と考えた時自発的に生まれてくるだろう。

小教区はこれらの基礎共同体の一致の要め、基地の様な働きをする事になる。

そこからおのずと、小教区の位置等も決められてくるだろう。

この基礎共同体は司祭が不足している地方に大きな成功を治めた。例えば、フイリッピン・クレベル司教が司祭不足(11名位)と多数の信徒(10何万)を前に直面して取られた方法にあった。勿論、この基礎共同体作りそのものは、よほど慎重に時間をかけて、取り組まねばならないし、又その基礎共同体自身に大きな問題をかかえている事もみのがしてはならないだろう。

司牧宣教の他の面からすれば、建物や組織の重要さも叫ばれるであろう。しかし、両者にある良い面を捉えながら、調和させていく事は出来ないものか。

この基礎共同体作りが、多くの実を結びつつある事をどうしても見のがす事は出来ない。そこには信徒の使徒職がより明確に、活発に目ざめつつある事、召命の芽もそこからより多く生まれつつある様である。

以上の様な基礎共同体的なものを頭に入れ、福音宣教と司牧がより効果的に実現するために、人(司祭、信徒)の観点から、場所(位置、環境、交通機関等)の観点から、又活動(年令も含め)等の観点から、教会の位置、適材適所等について真剣に考え直して見ようではないか。そして何か未来図といったものを描き出してみようではないか。そういった宿題を残して、今回の研修会は終った。

(おわび、紙面の都合上、割愛した点、多少書き変えたところがあります。)

平和旬間 8月14日の集い

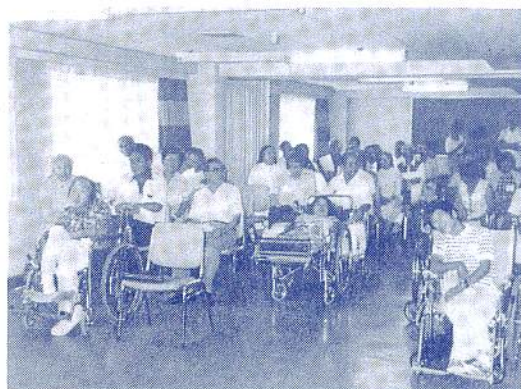
平和旬間実行委員会は、先に「生活の見直し」と言うアンケートを配り、その回答(一〇〇通)をもとに、8月14日 4つのグループに分かれ、話し合いとミサの集いをした。以下各グループの報告をここに記載することにする。

福祉関係

この関係のリポートは17あり、内訳はボランティア(11)老人問題(3)いのちの電話(1)釜ヶ崎での奉仕活動(1)、家庭での看病(1)と言う事であった。レポーター提出者の出席が3名しかなかったため子羊会関係のレポーターを読み話し合う。

各レポーターの中からの感想は次の通り。

- 多くの人がボランティア活動をしており感動した。
 - 自分がしているのではなく、キリストが共に働いておられる(共通した意見)
 - 自分は自己満足でボランティア活動をしているのではないかと反省。
 - ボランティア活動は人のためではなく、自分のためだ。
 - してあげると言う事に安住しているのではないかとの反省。
 - 根底に祈りが必要である。
 - ボランティア活動にせよ、教会活動にせよ家族の協力が必要である。
 - カトリック施設での信仰問題。
- 入苑者55名中、信者数17名、現在週一



同ミサにあずかっている。騒音の中で聞き取りにくい。行政監督を理由に、クリスマスや開苑記念日のミサが無くなる心配がある(しかし行政は宗教に無関係)。その施設の方針にまかされているとの事(個人の信仰の自由が守られる様期待する)。

● 京都教区に福祉センターが欲しい。
● ボランティアの組織をはっきりさせる具体的な働きかけをしよう。その場合、厳正な指導、登録、調整が必要である。

教育

討議テーマ「父兄のための育児教室」
(発題Sr中川 聖母訪問会)

現在の保育園に対する父兄の考え方を知り、その考え方について検討した。

最近、女性の社会進出がめざましく、長時間保育の要請が高まっている。保育園に預けておればよいと言う親の考え方に問題がある。

幼児期、特に3才までの親子の関わりが人間形成に如何に大切であるかを考えるべきである。長時間保育は親にとり、よいかも知れないが、子供にとってマイナス面が多い。長時間保育では集団生活しか出来ない子供に育つ恐れがある。個人として自発的に自由に行動出来る人間になる必要もあり、これは家庭教育にしくはない。

一日中べったりはよくない。外に働きに出るのは新鮮味を与えるのでよいと言

個人的にすると、のめり込む恐れがある。
● カトリック信者のボランティアはどうあるべきか。
してあげるのでなく、させていただくと言う立場に立つ様に、相手を喜ばせ、キリストに仕える様に仕える。心を開き合い友となり、すべて聖霊の助けによるものと考える。



う考えもあるが、実際疲れて帰って来るため、つい育児がおろそかになりがちである。働きに行かなくても、家庭で充分社会の動きを知り、考える事が出来るしボランティア活動も出来る。しかし又、子供を放任してボランティア活動するの無益である。

最近、父兄のための育児教室を設ける事によって考え方を改めつつある人もいる。保育園にあずかる場合、どうしてもそうせざるを得ない特殊な事情のある場合にのみ限る様にしている。家庭教育の大切さを、キリスト者ほもつと社会に知らせるべきである。

教育の責任はまず親にあり、正しい家庭教育がなければ、正義と平和に尽す人間が育つては来ないだろう。

平和グループの話し合い

- その話し合いを記すと次の通りである。
- 戦争体験者として教会機関誌に、平和について考える事を書いている。
- 平和行進に参加して、あらゆる宗教、政党を超えて一致出来る事がわかった。
- 真の平和とは何か。それはオブラートに包んだようなものでなく、皆がさらけ出し合った時出て来る物ではないか。
- 一つ一つの家庭の平和が、世界の平和に繋がる。
- 大々的にやるのではなく、平和行進の様に、自分がただやれるかである。
- 平和を語る時、唯一の被爆国である日本こそ主張の重みをもつ。大声で語ろうではないか。日本の教会は勇気をもって核兵器反対を叫ぶべきである。
- 信徒でなくても、人間としてどの様に



生きるかと言う事をわきまえている人がいる事がわかった。

家庭と教会

参加者、田中司教、浅田師外28名
レポート提出者%

- 被爆者援護に問題がある。国は積極的に援助しようとはしない。教会以外の人々の活動により被爆者の権利が勝ち取られた。これから教会として活動したい。
- 活動そのものに花やかさは無いが、している人もあり、その人々は明るい。
- ただ祈っているだけでなく、シスター等も平和行進などして生き生きしている。
- カトリック内で運動体を作る事は、きわめて困難である。平和について掘り下げた話し合いをする場がない、その場かぎりの運動でしかあり得ぬ危険がある。
- 政治に触れる事を警戒する風潮があるが政治意識をもっと持つ事が大切である。
- 平和とは、信仰とは等の問題は大きな問題のため、自分の身近かな事から問題を提出してもらうことにする。
- 小山教会のミサのアンケートが提出される。ミサについての話が主流となる。
- 日曜日は週の初めであり、キリストと人々との繋がりを求め分かち合いたい。
- 大切にされた事は、聖体拝領、自分を見つめる事。共同体としてお互いの信仰の確認、人間の交わりである。
- この集いによって変わった事は、積極的に教会内の役割を持つ様になった。考え方が異なる人々の考え方に慣れる事。日常生活でキリストの福音に生きる事。



- しかし、他方、惰性に流されたり、他人事の様に何んとなく参加していたり、皆が思いのまま語っているわけでもない。
- ミサ中のみことばの分かち合いを4つ位のグループに別れてする。
- (しかしミサ中に話し合う事は、典礼的にゆるぎされているのか)
- 二人の神父が前もって、打ち合わせておいて、かけ合いをする方法もある。
- 朗読はどうだろう。典礼委員会を作って朗読の割り当てをすると、典礼研修会を通じて、朗読等研修してもらってはどうか。子供が加わるのもよい。出来るだけ固まらない様に考えてはいるが、どうも教人の人々が固り、一つの仲良しグループになってしまう危険もある。
- はじめての人にはミサがわかりにくいので、その前段階が必要かもしれないが他方、未信者の人にも典礼の美しさがわか

るので、参加してもらう様にしている。

- ミサなしには生きていけないと言う姿を見た、しかし又、ミサと日常生活をかけ離れた様に見える事が多い。ミサの見直しをしなければならぬ。又行動の方法も見直しねばならない。
- ロザリオ会もよいが、始めての人にはとっつきにくからう、そこで家族ぐるみの聖書を聞く事がはじまったが、これは個人的な繋がりとともに家族との繋がりを持てる様になった。
- 平和についての司牧教育があるが、私は何をしたらよいのか具体的な事が出て来ない、教区で、示してくれないものか。
- カトリックの平和とは。何よりもミサにあずかる事によって得られるものではないか。土台は家庭にある。家庭の祈りが大切である。
- 教会内では、個人的な不満を受けとめる場がないのではないか。

平和学習会

第5回 10月29日(日)PM 6時~8時
第6回 11月26日(日)PM 6時~8時
所 京都カトリック会館5階会議室

平和ってなんだろう。戦争のない世界の実現は夢にすぎないのか。日々確実に私たちは無知にすぎないのではないか。

平和について、いっしょに学びたい方はふるってご参加下さい。

主催 ビジョン連絡協議会平和学習グループ

脳性麻痺の乳児を持つ 両親への朗報

早期発見すれば治せる
ヴォイタ法式を使って

聖ヨゼフ整肢園

「脳性麻痺の乳児なら特に三ヶ月以下で治療を開始すれば強い知能の障害や、てんかんを伴わない限り100%正常化する」と、ヴォイタ博士は考えています。そのヴォイタ法を、聖ヨゼフ整肢園の家森先生が取り入れ、多くの効果をあげているとの事です。

厳密に言えば、重症心身障害と脳性麻痺とは違うものであり、前者は元々存在する脳損傷の強いもの、後者は、発達の過程で間違った運動学を学習してしまったものと考えられます。もっとも、実際には重症心身障害にも脳性麻痺の要素も加わりますし、脳性麻痺も重度になればかなり初めの脳損傷が強い、とはいえ、前者は一次的に重度な知能障害を伴い、後者は運動障害がまずあり、次に知能障害に至ると云う事が出来るとの事です。

脳性麻痺の危険因子はいろいろある様ですが、出産前後の異常、特に未熟児の早産、新生児のけいれん、無呼吸発作、吸啜等の異常がある様です。よく全く身動きせずおとなしいと自慢する乳児をかかえた若いお母さんがいられる様ですがこれはかえって異常と見るべきです。新生児で泣きも動きもしない事自体が普通

ではないからです。

脳性麻痺に陥りやすい児の見分けかたとして、一ヶ月半位の幼児はやや頸のけぞっている様な格好をしています。正常児では、この後、前の方の頸筋の働きも起こり、頸の回旋も可能になってくるのですが、脳性麻痺児ではのけぞったままになります。又手足がだらつとしていたり、寝返りを余りうたなかつたりする場合、危険信号がある様です。

もっとも近頃、育児ノイローゼにかかっている若いお母さん方が有る様ですが又逆に、動かないので手がかららない事を喜んで安心して切っているお母さんもあります。子供は泣くもの、動くものであり、そういった異常を感じられたら、聖ヨゼフ整肢園に相談なさってはいかがでしょう。

家森先生は、その結びとして、人間の出産は多くの子供に脳障害の可能性が有るものであり、乳児早期においては非常に多くの子供が異常サインを出している。しかし乳児期の脳は驚くべき可塑性を持っていて、ほとんど修復機能が働く事、従って乳児の出来るだけの早期からの脳の修復機能が働きやすいように、外部から刺激を与え、異常な働きの固定化を妨ぐようにする事が大切であると言っている。異常出産、余り動かないでじっとしている等、乳幼児として少し異常と思われるお子さんをお持ちの方々は出来るだけ早く整肢園に相談されてはいかがでしょう。

いのちの電話



「あなたは
キリスト者か?…」

「私は36才、子供二人あります。二人とも男児です。数年前主人が亡くなり、仕方なく水商売に入りました。簡単に大金が手に入るからです。二年前より店によく存みに来ていた男性と親しくなり、その人の世話になりました。」

ところが世話になり始めて半年目にその人の商売がうまく行かなくなり負債をかかえ倒産したのです。本妻さんはその時にさっさと離婚し、当然のように私の家に転がり込んで来ました。私は彼が可愛そうで、又苦しい時に世話になったという負い目があり、その人を切る事が出来ず、私の親から受け継いだ土地を売り借金の払いの一部にしました。でも負債額が大きい為それだけで足らず、その人はサラ金からも借りましたのです。何度も再起を試みたようですが、サラ金の取り立てに又次のサラ金から借りて返す状態が続き、今はもう為す術もなくサラ金から借りまくってそれで生活をしている次第です。

私こわいんです。借借書が毎月束になつてふくらんで行くのがわかります。その人はもう廃人のようになって酒浸りです。私達もただの同居人となって

います。このままでは私も子供もつぶれてしまいます。サラ金の取り立てもこわくって…私どうしていいのか…疲れしました。」

「いくら世話になったからといって、もう貴女は十分その人に恩返しをしました。何の気兼ねもなくその人の前から姿を消すことです。貴女の持っているもの全てをその人に与えたのですから。でもこんどは2人の子供の為に生きなければなりません。だから逃げなさい。一日でも早く。」

「逃げていいでしょうか?本当に?血も涙もない人間にならないでしょうか? (激しく泣く声) あなたはキリスト教の方でしょうか? だったらどうか私の為に祈って下さいませんか? 何かで、いのちの電話」の相談員はキリスト教の人が多く聞きました。お願いです、お願いします。」この言葉に私は絶句した。私の一言がこの人の一生の別れ道になるかもわからないのに2時間位の会話で無責任な事を言っていないかと言ふ事と、クライエトから祈ってほしいと依頼されたのは初めてであったからである。それ故にこの人の苦しみの深さも理解出来たが同時に私自身の顔が恥ずかしさで赤らむのを感じた。「君はキリスト者か? 逆に質問され神を賛美したその口で、不平不満を言い、教会と世間をうまく使い分ける私自身を気付かされた思いであった。この日は這這の体で家に帰り寝てしまった。だがあくる日の早朝ミサで彼女と二人の子供の為に心こめて祈ったことはいうまでもない。

コミュニケーションへの提言

贖いの聖年編

「婆さん、外は雨が降ってるのやないか？」

「いいえ、外は雨が降ってますねん。」

「へーえ、さよか。わしはまた雨が降ってるのとはっかり思ってたんや。」

「わたしは、お爺さんが雨は降ってないと言わはったばかり思ってたまんや。」

この小咄の可笑しさは、耳の遠い夫婦が相手の言ったことが聞えないのに、わかったと一人合点して互いの話を進めている点です。話の内容が、双方の言ったことの理解なしに、偶然に一致しているのも可笑しさを誘います。

今朝、新聞の家庭欄に目を通していたら、「コンテナ家族からネットワーク家族へ」の新しい家族のあり方提唱―気持ちも生活態度もバラバラのまま同居しているコンテナ家族より、生活時間はバラバラになっても、家族相互にコミュニケーションのあるネットワーク家族でありたい、という小さな記事が見つかりました。

耳の遠い夫婦の話にしろ、コンテナ家族にしろコミュニケーションのうまくいかない人生、家庭生活、社会は何とうら悲しく、寒々と感じられ、また寂しいことでしょうか。

父なる神は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らせて下さる。(マタイ5・45) お方、愛そのものでいらっしゃる方です。それだからこそ太陽、雨にまさる最愛の御独り子、イエズス・キリストを私に、貴方に、彼と共にいるように下さったのです。



コミュニケーションの真髄は、御子、イエズス・キリストのうちにあります。

だから、キリストと共にいる私たちは、当然神の国を目指すネットワーク家族―神の民―であり、家族相互のコミュニケーションは勿論のこと、自分に対して何かうらみをいだいている兄弟にさえ和

解(マタイ5・23・24)し、「敵を愛し、迫害する者のために祈る(マタイ5・44)」というコミュニケーションにまで発展させる努力が必要ではないでしょうか。

丁度、贖いの聖年にあたって、それぞれの教区、小教区では、ローマへの、或いは教区長指定の小教区への巡礼が盛に行われているようです。贖いの主、キリストに感謝し、バチカンに、日頃訪問しない教会に巡礼に出かけるのは勿論、主イエズスの喜ばれることに違いはありません。しかし、私たちは同じ国に住みながら、相手を見下したり、肩身の狭い思いをする兄弟をつくりはしなかったでしょうか。

外国人であるというだけを理由に、話相手にもしなかった兄弟をつくりはしなかったでしょうか。

今でこそ、アジア諸国間の交流が潤滑に行われ、旅行も容易に出来るようになって、大勢の人が思いのままにそれぞれの国に出かけて行きます。国境を越える友情が生れ、貧しい兄弟への援助もいろいろの形で進められています。しかし、私たちはかつて私たちの兄弟が、アジア諸国の兄弟に、兄弟らしくない思いのことをしたことを、相手の寛大さに取り入って、「詫び」を言う、「謝る」という大事なコミュニケーションを勝手に棒引きしていないでしょうか。

つい先日、フィリピン、タラ瀬療養所でボランティア活動をしている若い看護婦、森尚子さんから、活動状況を知らせ

だお手紙をいただきました。

年老いた患者の潰瘍をおこした足の繃帯を交換をしている時、彼の口をついて出た言葉は、「日本の若い兵士たちは勇敢だった」という賞讃でした。こんなに心の広い人までも、日本人が苦しめたのかと感じて胸のつまる思いがしたと書いてあるのに、読んだ私も感動しました。

たしかに、日本人は、「ごめんなさい」が中々出にくいのが通例です。しかし、私たちはすべての人の隣人、兄弟となるように洗礼の恵みを受けたキリスト者です。本質的にコミュニケーションが、誰とでも出来る幸いな者と約束されています。この贖いの聖年にこそ、キリストへの愛から出る真のコミュニケーションの表現として、かつて傷つけた兄弟からのゆるしを願うことが具体化されたらどんなに意義深いことでしょうか。例えば、傷つけた兄弟からのゆるしを願う行為が、個人的なもの、恥辱に満ちたもの、小さなものであったにしても、キリスト、兄弟への愛に根ざしたものであれば、バチカンにお百度を踏むよりも父なる神をお喜ばせることに違いないと信じます。

誰であれ、自分に閉じこもり、自分の益にとどまる者、またそうした人々の共同体は内に向つてはバラバラ、外に向つてはコミュニケーションが出来ないものです。

因らずも、コミュニケーション年、贖いの聖年の重なり、私たちキリスト者は神の御旨をどの様に聞くでしょう。

(Y)

☆小教区の頁☆

津 聖心教会



の偉業を記念するため

に新聖堂再建に当っては此の十字架像の適切な再配置を考慮に入れることになった。委員会は最初旧

「津の殉教者」の讃美歌が聞えた

藤堂高虎で有名な津城の西掘端に聖心教会がある。最近その一角に博物館風の「津の殉教者」と命名することになった。実は之が将来日本一の史料館になるとは誰も予想していなかった。十一月には新聖堂落成一周年記念日のその同じ日に開館式を予定している。「津の殉教者」中島長兵衛や鯉江九右衛門が逆張付の刑で処刑された場所だけに意義が深い。そもそもこの館は聖心教会の百年祭を記念しての新聖堂再建に伴う附属館で殉教時代の先輩の信仰に対する姿勢を学び各々の信仰向上を計ることを意図したものである。史料館の正面にはゴルゴダの丘の情景を極くリアルに表現した大十字架像があり往來の市民の足をしばし止めさせている。この大十字架像は戦後の初代主任司祭の故バリー師の遺品である。同師が戦災の灰の中から津の信者を立ち上らせたそ

を利用して有志の日曜大工で簡単な記念館を作る予定であったが同委員の顧問の伊勢谷三郎氏が彼の半生をかけて収集したキリシタン遺物(伊勢谷コレクショ)を教会へ寄贈する旨申し入れられたので、計画は直ちに變更され、バリー師の遺品ゴルゴダの大十字架と合体した記念館兼史料館を建造することになった。

伊勢谷コレクショは信長、秀吉、徳川時代を通じて上流社会を中心にコレクショされた美術品も多く、上流社会に於けるキリシタン生活を研究するに役立つものが多い。又、この館を建設するに先立って信徒の一人で小野幾子と云う作家が「津の殉教者」と云うドラマを書き下ろし、昨年の聖堂落成式当日初演され一同を感涙せしめた。それがこの資料館の実現を促進したことは事実で、未だ祭壇の「はまれ」を見ない津の多くのキリストの無名の戦士を殉教者達の主を讃美する歌声が私には聞えて来る。

老女が教えて下れた「真の宝」

故バリー師が建設した旧聖堂はその美観ゆえに津市民に長い間親しまれていた。しかし古材で出来ていたので使用に堪え難くなった。小教区民の力で新聖堂を再建しようと決意したもの、小さな小教区民にとって実現不可能の様に思えた。当時の主任司祭ツッシュェット師は二年以内に完成すべきだと強く主張された。反対者も多い様だった。この事業は一時は挫折するかも知れぬと思えた。しかし信徒は良く祈った。ミサの共同祈願には必ず特別の祈りを捧げた。でも天の父がほんとうに何をお望みなのか見極めることは困難だった。

或る日旧聖堂の一部が破損して危険を感じる様にさえた。資金調達問題との間でジレンマに陥ってしまった。

とにかく新聖堂再建は全信徒が願っている。一方では主の御摂理は着々と進んでいた。その頃教会の環境に大いなる変化があった。主任司祭の突然の転出。私達はその



ニュースに失望と反省の中にもがいていたが、間もなく新しい主任司祭ジャクソン師を迎え入れた。

或る日、突然「奇跡」としか思えぬ位すべてがスムーズに行き始めるのを感じた。誰からともなく「ハンマーを持って集まろう。主の家を建てよう」と再び叫ぶ様になった。或る者はタバコを止め酒を止めた。レジャーを切りつめる者も増えた。老人や病人も祈りの犠牲で協力した。

新主任司祭の同意を得て建設資金の寄附金はすべて無記名で行う旨を説明した。その後、生涯忘れ得ぬ感動が与えられた。それは一人の老婦人が、彼女は病床にあって私の捧げるものは何も無いので、自分の寝具を神様の役に立てて欲しいと申し出た。私は病める老婦人にキリストを見出した。

この新聖堂は必ず完成出来ると確信をいだいた。ある老女は「私は五十万円持つてるよ。これはわしの墓の為に貯めたもんやが、お墓が出来ても聖堂が出来なんだから何にもならへん。教会で使ってんか」或る老人は二〇〇万円をポンと出して言った。「私の名は出すな。天国で得る分が無くなるよ」

この小教区中にすばらしい信仰の風が吹きまくり信徒自らの手で多くの巡礼者を迎えるに値しい新聖堂が完成した(私の日記帖より)

信託会会長 横田 正



ある出会いから

赤野 鐘一

長崎の浦上教会下の長崎カトリック・センターを訪れた折、大きな袍を両手に神父様が私と車の京ナンバーを覗きこんで「巡礼ですか。志岐にもどうぞ」と声

もぐらの寝言

長い夏が、さわやかな秋にようやくバトンタッチしてくれたのが九月もなかば、それでもこの田舎もぐらの寝言が皆さんのお目にとまる頃は、もう秋たけなわでしょう。そして夏の暑さも遠い思い出として過去のものとなっていることでしょう。

京都教区ビジョンも、もぐらの兄弟であるべき私にとって、遠い思い出と化しているのではないかと、深く土にもぐって反省している今日この頃です。それでも教区の各方面から送られてくる情報が、ビジョンビジョンと大賑わいで、中央の活動ぶりが田舎もぐらの耳に、これでもか、これでもかと聞こえてくるようで、ビジョンそのものを忘れさせることはありません。

をかけられた。「神父様お名前は」と伺うと「ヤノ神父」と言われた。実に三二三年ぶりの出会でした。と云うのは昭和五年か六年に、名古屋南山での第一回カテキスタ講習会に参加した時、神父様を囲んで話合ったその時の愛と十字架の話と、聖母の騎士のヤノ神父さんの名前が以後ずっと私の中にありました。お顔の記憶まではなかったものの、本当に懐かしく耳を疑う程嬉しいでした。神父様は、これから佐世保にと仰言り、私もお供をさせて頂きました。翌日お別れする迄いろいろ貴重な話や教えを頂きました。神父様は一五才の頃故国ポーランドの修道院でコルベ神父様に出会われた

事、叙階まもなく日本行きを云われ、その時非常に重い病気で遠い日本に無事元気に着く自信のない事を訴えられ、と、即座に「日本に着いてすぐ天国に行ってもよいではないか」と言われ、昭和十三年、健康そのものの二人の神父様と共に来日、健康だった二人は既に天国に帰る、病氣だった私が今こうして元気に働いていると当時を語られました。キリシタンに就いても造詣深く、佐世保へと走りつゝ「あの島、高島と云います」と殉教者達を葬った話、西村真珠とキリシタン、この奥が大村の殿さんが洗礼を頂いた処。志岐の島に聖母神社と云う古いお宮があるが、宮司も聖母と云う神社の名前の由

さて、そこでたわいのない田舎もぐらの寝言をひとこと聞いて下さい。教区から送られる善意の情報は、どれも捨て難い提案であり、よい知らせばかりです。今まで気付かなかった多くのことを学ぶことのできるのも、これらの情報のお蔭です。一方、これらの情報が

田舎もぐらの寝言



作られる課程を考えると、いかに沢山の人が、これにたずさわって、大きな労力が払われていることが想像が付きまします。しかし、この素晴らしい尊い犠牲に満ちた便りも、広く送られた先の教会ではどのように受取られているでしょう

か。主任司祭の判断でクズ籠に直行するものもあると聞いています。掲示板にところ狭しと色あせて貼られている教会もあります。取捨選択してくれる神父様のいない私の教会では、事務所の机にすぐ山積みとなります。郵便が遅れて期限切れとなった知らせも混ってききます。教区の皆さんはこれをどのように処理しておられるでしょうか。田舎もぐらにとっては所詮、田舎なみの行動範囲と思考能力しかありませんので、これらの情報は栄養価の高い食糧として穴に貯めこんで、やはり足元の小さなビジョンを大切にすると他ならないのです。田舎もぐらにとって、その足元こそ社会であり、社会と共に歩むわれらもぐら共同体の生きる道だと思っています。

長浜教会 M

来がわからない。こうした分野に詳しい歴史家が奈良におられ依頼しているがまだ出会えていない、など、いろいろ話を伺っているうちに佐世保に到着。そこでは京都西陣教会出身の杉本さん宅でお世話になり、その夜、三浦町地区の集いへ招かれました。ロザリオの祈りの後「大友宗麟の甥になる殿さん（彼は神学校に入り途中から武士に変る）が秀吉の命令で朝鮮に行く船の中で毒殺され今年三九〇年になる。その墓は昔の儘今もきれいに残っているが、その遺言状の中に十字架を立ててほしいとある事を志岐に主任として来て知り、今年五月三日綺麗な十字架を立てミサを捧げた。皆さんも是非志岐に来て巡礼のつもりで祈ってほしい」と話されました。もし私が五分早くても遅くても、あなたがそうでも、この出会いはなかった筈、実に神様の愛の摂理だと神父様は何度も仰言いました。思い詰めた事がなかったように本当に懐かしい夢のような感謝の出会いでした。主なる神様の御手のうちなる私共の一日中の日常生活の一秒一秒がすべて摂理のうちに刻まれており私達の心と眼を常に主なるイエズス様にチャンネルを合せて、イエズス様のお声を聞きイエズス様に出会い一致して感謝に生き続けたい、隣の友の中におられる主なるイエズス様に喜んで頂けるように働きたいと決心しました。来々韓国にみえる教皇様をお迎に行くと心から楽しみに待っておられるヤノ神父の益々のご健康を祈りつつ。

(加悦教会所属)



大北山の急勾配に登りきると、カルメル会御告げの聖母の修道院。丁度左大文字の裾にあつて、そのたすまひは春ならば鶯、秋は虫の音のすだく中、訪れる人を静寂と祈りに誘う。案内された部屋

に迎えて下さったのは、ベルギー人のシスターを交えた五人のシスター方。
「京都教区ビジョンをどのようにとらえ、観想修道共同体との関連づけをしてもらえるかお聞かせ下さい。」

「カルメル修道会は創立者の聖テレジアの精神に従い、祈りと修道生活によってキリスト共同体につながっています。」

私共の共同体は、教会の必要に敏感に反応して、教会と共に歩むという創立者の意向から、先ず地方教会、京都教区を知り、撃つてゆくように十年来、東門師(河原町)を招き勉強を続けています。第二バチカン公会議公文書を学ぶ傍ら、小教区の現状、市民クリスマスの様子、カトリック教会とプロテスタント教会の関係、時折お訪ね下さる田中司教様から諸宗教との関係など京都教区の動きを教えていただいています。

現代社会を知るためには、姉妹の一人が普通の新聞、カトリック新聞の他、世紀、声、御心の使徒などを読んで共同体に必要な情報を集会で伝えます。

一般に観想会というと、社会から孤立して自己成聖のために祈りの生活を送っていると思われがちですが、観想修道会は教会全体に支えられ、はじめて祈りの修道生活が成り立っているもので、決して自分たちだけ離れたものではありません。シスター個人の都合、病床にある家族を兄弟姉妹が代って看護し、支えることにより、シスターの祈り、修道生活が完うされるように、観想修道会全体もキリスト共同体の支えなしには考えられません。修道生活を通して余計な心の思い煩い、雑音が落ちるのでそれだけ修道者は敏感になり、人の痛みを人のものというより、

社会と共に歩む人物記(10)

社会と共に歩む共同体

カルメル会御告げの聖母修道院(衣笠)

自分の痛みとして受取り、それを捧げる事を自分の召命とします。だから私達は福音的な自己放棄の使徒職、辱る使徒職と呼んでいます。」

「教区ビジョンの6つのテーマのうち、シスター方が大切だと思われる点をお話下さい。」

「やはり何といっても、自己刷新が基礎になると思います。キリストと自分が一致して毎日、そして生涯を生きるかどうか。その意味で全体を占める一人の大事さが考えられます。一人一人が自分の召命を生きてゆくことが教会の歩みだと思っています。」

聖テレジアによるカルメル会会憲は四世紀前につくられたものですが、心を開き、絶えず祈る共同体として生きることは、教会のセンスを生かし、絶えず祈に、大きくするよう全力を尽くすことが述べられています。具体的には、教区、司教、司祭の意向を自分のものとして生きてゆくように全力投球することなのです。四旬節中に出される教皇書簡の中心になるもの、司教教書に示される教区の方針を学んで実行するといった、地方教会と一致して歩む、ことを心がけています。

祈る共同体として、朝夕、主日の共同祈願は勿論のこと、教区、教区民の方々の意向にあわせてお祈りしておりますが、もっともつと教区民の皆さんが自主的に意向を私共にお伝え下さるようお願いしております。私共は生活の中の祈りに意識を持つように努め、観想会全体に述べられた教皇のお言葉通り「自分の祈りの結果を見ず、知ろうとせずすべてを捧げ、自分の生活をあわせる」ことに努力し、そして喜んで沙漠を旅する教会の先頭を行かれるナザレのイエズスに従ってまいります。

「シスター方から教区ビジョンの具体化に邁進する教区民にお伝えすることがありましたら……」
「社会と共に歩むのに、世に妥協せず、流されることなく、また一部の方だけでなく、全体がいつもキリストと一致してゆっくり歩んで行かれるように祈っています。」

ます。ビジョンがわかる方達、活動家達だけが先走りするのではなくて……」
シスター方の敏感さと喜びに満ちた表情は教区ビジョンに向って歩む人々の先取りを感じさせました。(Y)



時報が対話 おう書く
の手段なら 者も読む者
は「互いに」も、投稿者
心を開けあ も編集者も

◇はじめて本格的な釣に連れて行っていたきました。たとえどんなよい漁場で、どんなよいえきを与えても、100%釣れるわけではないのです。いやむしろ失敗する事の方が多くいんですね。

使徒とは魂の漁師となる事だ、あの譬えは「働けば大漁の約束でなく、働けど不漁、でもがんばればとの励まし」の言葉ではないか。福音宣教に余りにも成功を期待しすぎてはいないかなあ。(M・T)

◇アキノ氏暗殺事件、大韓航空事件、どちらも「コミュニケーション年」を踏みにじる現実が、世界を驚きと恐怖に啞然とさせました。これらの事件の犠牲者の冥福を祈るだけで、キリスト者として生をうけた者の使命がはたせるでしょうか?

「心を開く」ことによって、何か私に出来ることはないでしょうか?このような社会の中を歩むことによって、何か「時のしるし」になることはないかしら。(Y)
◇できるだけ早く皆様のお手元にと編集を急いでおりますが、発行が遅れましたこと深くおわび申し上げます。(K)